



CBC NEWS

2006年 12月号

中央聖書神学校



先日も、授業で私が教室に入り、祈りをもって授業を始めようとしたのであるが、その前に、一人の学生が、「先生、髪の毛が立つてる!」と指摘してくれた。教室の一番後ろの席に座っている学生でさえ、わずかな髪の毛の乱

中央聖書神学校で教え始めて二年目に入った。今年になって一つのことを特に強く感じている。それは、教えることの責任の重さである。学生たちは、教師たちのあらゆるところから学んでいる。別の言葉で言うならば、彼らは、教師たちが自覚していないようなところを見て、影響を受けているということである。

白石 信之

ひとりひとりが
輝ける神学校を目指して



しかし、そのような自分に気づく一方で、学生たちには、決して、ディフェンシブになつて欲しくないと思つてゐる。神学校という場所は、同じ学生たちと寝食をともにして、常に一緒にいるため、学生は、他人と自分を比べることが多くなる。そして、自然と自分の弱点に目を向けがちになるのである。「周りの人たちは、これこれのことができるのに自分だけできない」とかすぐに考えてしまうのである。その結果、いつも、自分の弱点を改善することばかり考え、周りの人には、心に向いてしまいがちになる。

れに注目していたという事実に驚かされた(ちなみに、その学生は、私が髪を切ったときも真っ先にそのことに触れていた。普段から私の髪に注目しているらしいが...)。そのような学生たちの視線を受けながら、最近特に私は、教育の責任を強く感じ、とてもディフェンシブ(守りの姿勢)になつてゐるのである。「何か抜けはないか、何か自分の至らない部分はないか、そのような点は改善していかなければ」と常に考えているのである。

学生たちと話をする機会が、最近多くある。その中で一つ感じることは、彼らは雑多であり、ある面、ひとりひとり全く違ったキャラクターを持つてゐるが、すべての学生がしっかりと賜物を持っているということである。私は、彼らがそのような賜物を見つけ、神様に感謝し、それを磨きながら、生き生きと輝いて学生生活を送れるような神学校づくりに貢献していきたいと思う。

私も経験したことだが、それは、とても良くないことである。自分の苦手をなくしていくことは、ある程度大切なことである。しかしながら、そのことばかりが気にかかつて、神様に心を向けることがおろそかになつてしまつたり、劣等感を持つてしまつたりしては、かえつて信仰が成長する上での妨げになる。それより、むしろ学生たちに必要なのは、神様にいつもしっかりと心を向けていることであり、また、同時に神様が与えてくださったっている、自分の中にある賜物を見つけて、神様に感謝し、それをいかに活かしていくかを考えることである。

聖書信仰にたつて福音宣教の使命に
燃える者を訓練・育成する

中央聖書神学校

ATA 認定校 校長 菊山和夫

入学資格：高卒以上、召命の確信がある者

入試日程 〈入学試験日〉2007年2月20日(火)
〈願書締切日〉2007年2月13日(火)

本校・関東分校 〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20
TEL 03-3918-4925 / FAX 03-3918-4064

関西分校 〒663-8184 西宮市鳴尾町1-10-7
TEL/FAX 0798-41-4428
<http://www.cbc-j.ac.jp/>

【学校理事会関係】
6月20～21日、9月11～12日

【運営委員会関係】
6月12日、7月11日、9月5日、10月17日

【学事往来】
7月10～12日 教師研修会
7月25日 長屋勇師全監に就任
7月9～8月29日 夏期派遣
9月17日 聖別会
9月23日 講師 細井眞師
10月23日 オープンキャンパス 5名参加
10月23日 CBC遠足
高田馬場にて アイススケート

後援会入会のお願ひ
1951年本校開校以来半世紀余り、全国諸教会よりの貴いお祈りとご献金によつて神学校は支えられて参りました。数年前に学舎も新築され、見事に変革致しました。けれども、チャペルの屋根の塗装が一部はがれ始めたのか、白くなつてきました。また男子寮のお風呂場のアルミサッシの戸も修理の必要に迫られているなど、修繕費にも資金を投入せねばなりません。出費多端の折ではありませんが、伝道者養成の使命を帯びたCBCのさらなる発展のため、未加入のところはぜひ本会にご加入頂きたく、主になつて心よりお願い致します。ご一同様に天父の恵み豊かなれ!後援会会長 長屋 勇

☆後援会入会要請
個人会員 一口 年5千円
法人会員 一口 年1万円
連絡は中央聖書神学校内後援会宛にお願ひいたします。

お詫びと訂正
◎前号(5頁)の関西キャラバン、恵みを頂いた教会の紹介のところ、和歌山キリスト教会が抜けていたことに、お詫びして訂正します。

編集後記
CBCでは、すべての神学生が、年間を通して一つの奉仕を担当する「部」と、一定の期間だけ特定の奉仕を担当する「委員会」にそれぞれ所属しています。私たちが所属している新聞部は4名で、年に数回発行されるCBCニュースの製作のため、発行時期だけでなく、年間を通してより良い紙面に つながるアイデアを検討していただきます。今号のCBCニュースもお読みくださり、ぜひ今のCBCの姿を知ってください。そして、より良い紙面作りのため、読者の皆様のご意見を頂きたいと思つています。私たち神学生をお目にかかれた際には、お声をおかけくださり、CBCについてお尋ねいただければ幸いです。今後ともよろしくお願ひいたします。(横山)

CBC NEWS 12月号
編集スタッフ
岩田明美 北澤成弘
川上基枝 横山唯一
編集責任者
込尾隆義
事務局
中央聖書神学校

ご献金によるお支えを心より感謝申し上げます。			
2006年6月～10月 献金者			
教会： 浜松北キリスト教会 仙台神召キリスト教会 熊本聖書教会 東京主栄光教会(教団外) 個人： 麻生キリスト教会 松本春雄兄、俊子姉 大船神召キリスト教会 井上新子姉 大坂太郎師、智子師	ダビデの石献金 北海道 ・名寄聖書キリスト教会 関東北東 ・狭山キリスト教会 ・江戸川台キリスト教会 ・神召基督教会 ・大島キリスト教会 ・中央福音教会 ・武蔵野キリスト教会	関東南西 ・杉田キリスト教会 ・川崎中央福音教会 ・大船神召キリスト教会 ・平塚キリスト教会 東海 ・天塚キリスト教会 関西 ・南紀キリスト教会 ・鳴尾聖書キリスト教会	四国 ・高知聖書キリスト教会 ・中村福音キリスト教会 九州 ・佐伯聖書キリスト教会 ・本渡キリスト教会

「これから神学校」

2006年度 学生会員

3年 大坂 大

「これからの神学校」このテーマに対し、私が今、現在の神学校をどこまで知っているのかと問われるならば、私はほとんど知らないのかもしれない。今回の文章は一人の学生の持論である事を御了承頂きたい。

私が考えるこれからの神学校とは、学びと霊性、そして一般教養などにおいて広い視野を持たなければならぬと私は考えている。

① 学びにおいての広い視野

一般社会が急速に変化していくように、聖書の学びも日夜研究が行なわれ、日々新しい発見が論じられている。このような広範囲にわたる研究があるにも関わらず神学校が近視眼的であってはいけな

台を携えて後の牧会へとつなげる事ができる。だからこそ私は広い視野をもって学ぶことが大切である、と考える。

② 霊性においての広い視野

キリスト教において様々な集会がもたれ、その中で人々は救い出され、また癒しの業が行なわれ、さらに国が聖霊の働きによって変えられて行くという主の業を見ることが出来る。一方その反対に、聖霊の働きを抑制する動きも見られる。よって霊性において広い視野を持つのであれば、このような出来事の中において良し悪しの判断を行なうことができるのである、これもまた揺り動かされないための信仰の基となるのである。

③ 一般教養においての広い視野

私達は聖書の学びだけをする事が必要なのか？そうではない。神学の勉強が机の上だけで行われるのではなく、それが実践されるのは社会の中である。だからこそ実践の場である社会についての知識を広く知っている事は聖書の学びと同じくらいに重要なのではないだろうか。以上に上げた事柄がしっかりとバランスを保ちながら学ぶことが必要と考える。これから

の中央聖書神学校に期待する事は、さらに深く、そして広い視野を持ちながら学び、また霊的にも社会的にも成長して行くことである。これからも、さらに中央聖書神学校が主に用いられる器を排出する機関となることを祈っている。



CBCの
校舎。学生達
ここで学び
ます！

心静めて神の声を聞く……
静心

1年 中川 百合

先日チャペルのメッセージで語られた御言葉が私の心から離れない。バプテスマのヨハネについてヨハネによる福音書十章四一節にはこう書かれている。「この方について話したことはみな真実であった。」私は、このような器になりたいと思う。神の御言葉を曲げたり、水増ししたり、反対に減らしたり、飾り付けたりするのではなく、ただまっすぐに真実に正しく御言葉を解き明かす器になりたいと願う。学びは楽ではない。寮生活も楽しいことばかりではない。しかし、この中央聖書神学校という素晴らしい学び舎で一つ一つ神に与えられたハードルを乗り越えて、一步一步神に用いられやすい、練り鍛えられた器へと変えられ続けていきたい。



「研究科出席の感謝」

—横田キリスト伝道所—

井野 正人師



I. 2006年夏期の研究科に

出席して

2006年夏期の研究科に出席が出来て神に感謝しております。夏期の研究科に2科共に出席出来ました。前半のヘブル語を高谷満世師に、後半の弁証論研究を込尾隆義師から講義を受けました。世界情勢と日本宣教の現代における問題点も常に指摘しながら講義は進みました。新たな視野、視点を得られる良い機会となりました。

II. 弁証学研究の講義に

出席して

最初に弁証学の定義・側面として、1、証明としての弁証・信仰の合理的な基礎を提供する。2、防御としての弁証・不信者の反対論に答える。3、攻撃としての弁証・不信仰な思想の愚かさを攻撃する。としました。しかし、これはテキストの著者が欧米のキリスト教圏のキリスト教としての文化的枠組みがあ

III. 講義の内容と今後の奉仕

弁証学の4つの定義・側面を行い（日本は宣教地であるから宣教の対象の研究、攻撃してくる非キリスト教世界圏に疑問をもたせ、防御においてキリスト教に対しての疑問を取り除き、証明においてキリスト教世界観を確立させる。を不断に行なう必要がある。）この事において「神学とは」における各作業を

る立場でのものであり、日本のような宣教地においては、込尾師はさらに、4、宣教論の基礎としての弁証学を提唱されました。このような欧米の文献にな

より徹底して行いA「聖書において信仰告白された使徒達の信仰を認識し」B「歴史的な伝統から学び」C「今日おかれた状況への対応」によりD「現代の日本、東京の多摩地区におけるキリストの教会にふさわしい信仰告白、宣教の生きた言葉」(意味のわかる生きた言葉)を生み出す必要がある、また、その言葉は「キリストの体の生き方そのもの」となる必要を痛感しました。その生き方そのものが宣教の言葉として現代の世俗化した日本・世界に対して「本物の証」であり、この事を繰り返して行えば、究極的目標は「福音キリスト教会信仰基準とそれに基づく礼拝指針・政治指針」の作成、それによる教会形成になると思います。

* *

今回の弁証学研究で得られた事は「牧師としての生涯の目標の設定と目標達成の具体的な手段の提供」にありました。キリスト教会の2000年の歴史を引き継ぎ、先輩達と同じ信仰の道を歩む事ができる事は本当に幸いです。

2006年前期・CBC活動紹介

夏期派遣のお証し
2年 下方 悟

私は今年の夏期派遣において沖縄教区巡回ということで、教区の7つの教会に遣わされました。その恵みの大きさは限られた紙面ではとうてい収まりきるものではありませんが、そのいくつかをお話しさせて頂きたいと思います。

私が体験したこと1つ目は、「神は用いてくださる」ということです。私はある教会において、礼拝では「救いから献身への証し」祈禱会では「メッセージ」の奉仕をさせて頂きました。その祈禱会のメッセージにおいて、私は神さまの素晴らしい恵みを体験したのです。祈禱会の奉仕を終え、他の教会を巡回し、教区のユースキャンプが無事に終わり、私はもう一度、その教会に遣わされました。すると、ある兄弟が眼をキラキラさせながら、私の方に近づいて来られました。彼はこう言うのです。

「神学生さんが語ったメッセージによって、私はこの1ヶ月、素晴らしい神の臨在を体験しました。」ハレルヤ。ハレルヤ。ハレルヤ。

神学生のメッセージ。しかもこの若干21歳の若造のメッセージを神さまは用いてくださるとは…。オロオロ（涙）「権勢によらず、能力によらず、わが霊によるのである。」まさにその御言葉を体験したのです。

私が体験したこと2つ目。それは「祈り」です。キャンプにおいて、また各派遣教会において、沖縄の人々の祈りに感動しました。涙を流しながら祈る姿。主の前にひざまづき祈る姿。特に感動したのは日本の国の情勢について真剣に祈る姿です。小泉前首相のために、拉致被害者のために祈る姿。私はその姿を見たときに、自分ほとんど日本が面している問題のために真剣に祈っていなかっただろうか。祈らなければならぬこと。はこんなに多いのに、どうしてこんなに気づかないのだろうか。「自分には関係ない」という思いになつていたのではないだろうか。自分の祈りの姿勢に深く反省をしました。



↑ CBC・バーベキュー大会

神学校対抗フットボール大会
練習風景（下方神学生）→



他にも、様々な主の業を沖縄において見ることが出来ました。私にとって沖縄で体験したことは、私の永遠の糧となることは間違いないでしょう。「CBCは実践が弱い。」それは大きく間違っています。なぜなら、これほどの「派遣」という恵みを体験することが出来るのはCBCだけだからです。最後になりましたが、このような素晴らしい機会を私に与えてくださった神学校の先生方、沖縄諸教会の先生方、沖縄の信徒の皆様、心から感謝申し上げます。そして何よりも沖縄に導いてくださった主に感謝。ハレルヤ。



- ①出身教会 ②(CBCの中で)自由時間の過ごし方
- ③好きな教科 ④特技 ⑤趣味 ⑥一番の宝物
- ⑦チャームポイント ⑧自分を動物にたとえると
- ⑨好きな色 ⑩好きな動物 ⑪行ったことのある国
- ⑫お得意の楽器 ⑬好きな食べ物 ⑭嫌いな食べ物
- ⑮今まで生きてきて、一番嬉しかったこと ☆・☆
- ⑯どのようなビジョンを持っているの? ☆.....☆☆
- ⑰好きな聖書人物 ⑱好きな聖書箇所 ☆...
- ⑲CBCに入ってから面白かったこと ☆・☆...☆☆...
- ⑳CBCに入学して自分自身が学んだこと ☆...: ☆



おおさか だい
大坂 大

- ①山手町教会
- ②運動。散歩する。
- ③組織神学・聖書解釈学
- ④囲碁14級(笑)
- ⑤釣り。ハイキング。
- ⑥今までの思い出 ⑦元気さ
- ⑧くま ⑨藍色
- ⑩犬
- ⑪ネパール、韓国、タイ、マレーシア、インドネシア、シンガポール
- ⑫ピアノ ⑬アボガド、メロン、シュークリーム ⑭レバ刺し
- ⑮色々ありすぎて...
- ⑯高齢の方に向けての伝道!
- ⑰モーセ・エレミヤ・パウロ
- ⑱エレミヤ29:11
- ⑲個性的な人と一日中一緒に生活した事
- ⑳自分の足りなさに気づいた。



いわた あけみ
岩田明美

- ①天塚基督教会
- ②寝る。ウインドーショッピング
- ③キリスト教教育
- ④柔軟??
- ⑤はがきを集めること
- ⑥家族 ⑦笑顔! (笑)
- ⑧りす ⑨赤系
- ⑩猫...だけどアレルギー
- ⑪フィリピン、ニュージーランド、フィジー、ハワイ、アメリカ、中国
- ⑫ピアノ ⑬大学芋、納豆
- ⑭バルート
(雛にかえっている卵)
- ⑮イエス様に会えたこと
- ⑯ユースに向けての伝道
- ⑰モーセ、バルナバ
- ⑱箴言3:5, 6
- ⑲はじめの頃、献身者なのに「説教は勘弁」とお祈りしていた事
- ⑳人ではなく神を見る事が大事



いの うえ たか はる
井上隆晴

- ①氷見キリスト教会
- ②古本屋めぐり ③教会史
- ④空手、野球、アームレスリング
- ⑤旅行、つり
- ⑥クリエ ⑦足
- ⑧イヌ 又は おおかみ
- ⑨青 ⑩犬
- ⑪アメリカ、台湾、韓国、イギリス、ドイツ
- ⑫ギター
- ⑬すし(回転)
- ⑭特になし
- ⑮イエスさまに愛されていること
- ⑯愛に溢れた教会を牧会する
- ⑰モーセ、ペテロ
- ⑱エペソ2:10
- ⑲ユニークで個性的な学友と寮生活したこと
- ⑳神は真実であり、御言葉は真理であること。

神様に捧げる心

1年 久保田 顕

私は、7月28日から8月20日まで、兵庫県にある鳴尾キリスト福音教会で奉仕をしました。そこでの恵みと学びをお分かちしたいと思います。その受けた恵みと学びは、初日の夜、牧師の山田博先生、晃美先生とお話したことから始まりました。その会話の中で先生は、「教会のマネージメントの基本は、掃除だよ。」とおっしゃっていたのです。その名言どおり、教会の掃除の奉仕を週に何度もさせていただく中で、大切なことを学びました。それは、礼拝を捧げる心です。

日々の奉仕は、会堂や玄関や階段のゴミを掃除機で吸い取り、カーペット・トイレ清掃等をする事です。何度も掃除の奉仕をするなかで、山田先生のおっしゃった「基本は掃除」という言葉をふと思い出したのです。それまで私は、会堂を綺麗にするために奉仕をしていたけれど、心は事務的な仕事や作業として捉えていたのです。しかし、会堂を掃除するというこ

とは、礼拝の場を整えるということであり、教会の兄弟姉妹が気持ちよく礼拝を捧げる手助けとなる奉仕をしていることなのです。掃除の奉仕は、司会や奏楽とは違い、目立たないように思えるかもしれませんが、それは礼拝を捧げる奉仕の一つなのです。

受けた恵みは、青年会の活動にもありました。派遣の最終日に、教会の青年会がもたれていて、その集いに参加することが出来ました。昼食の後、教会の3階の小礼拝堂にて、今後の青年会の活動の話し合いがもたれました。そこでの話し合いは「今後の青年会につ



山田博師、久保田神学生と鳴尾教会の兄弟姉妹

いて」であり、お互いが現状の青年会の課題と、ビジョンの分かち合いをしていました。そこには、互いの賜物を把握することと、神様への忠実な活動をしようとする「よりよい礼拝を目指す姿」があったのです。神様はその奉仕をする心をご覧になられるのであります。私の奉仕の心は、どれだけ神様に受け入れられたのだろうかと考えられました。

最後に、日曜学校での学びと恵みです。日曜学校は、約10人の子供たちが来ています。私は派遣の最初の日曜日にメッセーjの奉仕があつたので、準備をして語りました。準備をした全てを語ったのですが、なぜか、本当に子供たちの心に届いたのかという点で疑問に思えたのです。その答えは、神様と自分との間で祈りによって親密な関係を持つことが必要であるのと同じように、私と子供たちとの間にも親密な関係が必要だったので。時間をかけ、子供たちと触れ合う中で、彼らの純粋な信仰の心をもつ大切さを知りました。



誠志会病院の証

2年 田村 敬子

去る6月10日、私にとって2度目の病院伝道であつた。この病院伝道で受けた恵みを改めて思い起し、証でことに感謝したい。

誠志会病院伝道は、学生の自主活動として先輩から引き継がれてきた。この伝道は2部に分かれている。先ず前半の約1時間は、神学生が企画し、集会をもたせて頂いた。集会には主にクリスチャンの方々が集まってくださる。

後半は、移動することの出来ない方々のおられる重症病棟に私達



2006年6月10日、誠志会病院にて(田村神学生)

が出向いていく。苦難の中にいる魂を目の前にして「いったい何が出来るのだろうか」と考えさせられる。医学の力や経済力でもなく社会的地位でもなく、ただ、人間を愛し、赦し、癒してくださる主を信じる信仰で必死に祈る。イエスの名によって祈る特権を与えられている事に、真摯な畏れを感じずにはいられない時である。

私は神学校入学前、病院に勤めていた。そこで病院伝道の必要性和同時に困難を覚えていた。私の知る病院では、たとえ個室であっても大きな声で賛美をすることなどはタブーであつた。しかし、誠志会病院では、ごく当たり前に病室で大きな声で主を賛美し、またひとりひとりに声を掛け、手を置き祈る。これには驚いた。ノンクリスチャンの方も大勢いるにも拘らず、ほぼ100%拒否すること無く賛美に耳を傾け、祈りに合わせ目を閉じて応答する。

日々の回診で、院長は医者の中で患者さんを診る前に、クリスチャンとして一人ひとりの患者さんを訪ね、祈るのである。この祈りが積み重ねられ、このようにパッとやって来た神学生がいきなり訪

問をしても、賛美と祈りをささげることが出来るのだ。

また、1人の気管切開をし呼吸器をつけた女性に出逢った。彼女は気管切開をしているため言葉が出ない。しかし、彼女の目は、どのように表現したらいいのだろうか、穏やかなのである。自由を奪われ、機械に頼らなければ呼吸をすることも出来ない状況にあるはずなのに、穏やかな目で私を見つめる。

私は、神さまを伝えたい、苦しみの中にいる方のために祈りたいと思ひ、この病院伝道に参加した。

しかし、その高ぶった思いは打ち砕かれた。ひた向きに主の御こころを行う院長、スタッフ、積み上げられた祈りと涙を知ったのである。そしてこのひとりの女性から、どのような状況に置かれたとしても、主がともにいてくださるならば、心から喜びと平安が溢れてくることを教えられた。彼女は間違いないくベッドの上で、周囲を取りまく医療スタッフ、家族、そしてこの小さな神学生に主の栄光を表し続けているのである。ハレルヤ。



2006年度・CBC活動紹介

学生伝道集会 (Gospel In The Night)
—毎週金曜日、中央聖書教会にて



2006年11月3日 全生園伝道

2006年7月7日「実践神学通論」教会見学

